工務店のお役に立つ　その11

「震災の影響」「ケータイ端末利用者」

工務店と本紙は、ともにウェブによる情報発信を活用できれば、今後営業上の大きな武器を入手できる。そう考え、本紙編集部では様々なチャレンジを実施しています。今回は「震災の影響」「ケータイ端末利用者」について。

震災影響情報を掲載

２０１０年３月は、29本の記事とその他の告知記事を「札幌良い住宅・ｊｐ」と本紙公式サイト上に公開しました。アクセス数は１万４６１９件でページビューは４万２４６０件と前月を約２割上回りました。

本紙は、３月12日に東京の大手町で開催する予定だった「住宅換気フォーラム」の運営準備に追われる中で11日の震災に見舞われました。

事前に１６０名の参加申し込みをいただいており、参加予定者に急遽ウェブ、およびメールでイベント中止の連絡を行いました。

さらに３月15日の段階で建材メーカーなどの震災による被災状況などを掲載したほか、本紙が輸送等の障害のため被災地をはじめとする各地の読者に届かない可能性もあったため、新聞全文をＰＤＦで配信開始しました。また北海道内の住宅業界においても生産工場の被災や物流の停止、消費マインドの変化などが予想されるため、震災の影響による経済的な２次被害の予測なども掲載しました。

ページビューは、震災直後は１日あたり本紙サイトは３００前後と激減、16日以降は一転して震災の影響等の情報を中心に１日あたり２０００ページ弱に達するなど急増、「東北太平洋沖地震の建材・設備メーカーへの影響」という記事は約１万ページビューに達し、震災の影響について大きな関心を集めたことがわかりました。

札幌良い住宅・ｊｐについては、同じく震災直後にはページビューは大幅に落ち込んだものの、以降は安定した閲覧数を得ています。

３月10日にはサンケイ建匠㈱のＹ邸を掲載、開放的で明るい空間設計と隠す収納、そしてプラン決めの際の現実的で多彩な提案、暖かい住まいを実現させた同社の魅力を語っていただきました。

11日にも同社の記事。オーナーのＴさんが、機能性を重視し「暖かい家」を追求したことと、内装などに明確な要望が多数あった中で、同社が誠意をもって取り組んだことがわかる記事となっています。

19日には白田建築事務所で新築を行ったＩ邸を取材。ファイナンシャルプランナーなどに相談したなかで、大規模リフォームと同等の価格で新築が実現でき、なおかつ暖房費を大幅に抑えられる同社での住まいづくりが実現したという記事を掲載しました。

新規に札幌良い住宅・ｊｐに加わったアウラ建築設計事務所の１本目の記事が31日に掲載されました。過去に欠陥住宅を購入してしまったＫさんが、住まい作りを２年以上学び、住宅会社のモデルハウスを巡る中で、話を良く聞き的確なアドバイスをしてくれる同社の山下一寛代表を選んだという経過や、施主自らプランニングや土地探しなどを建築家や工事会社などと密に関わりながら取り組んだ経緯を紹介しました。

31日にはカサシマ建設㈱が「明日風のまち」に建設した湊さんの自宅を取材させていただきました。

木を活かした自然を感じる家を実現させたいと３年間の試行錯誤の末に同社に出会い、古民家風とも田舎暮らし風とも言える住まいづくりが実現しました。使い込むと愛着がわいてくる家、ガーデニングや畑作り、親子が接する機会の多い家、たっぷりとした収納で子どもが３人いてもすっきり片付く家など工夫が随所になされている住まいづくりでした。

本紙公式サイトのアクセス推移（2011年3月）

札幌良い住宅.jpのアクセス推移（2011年3月）

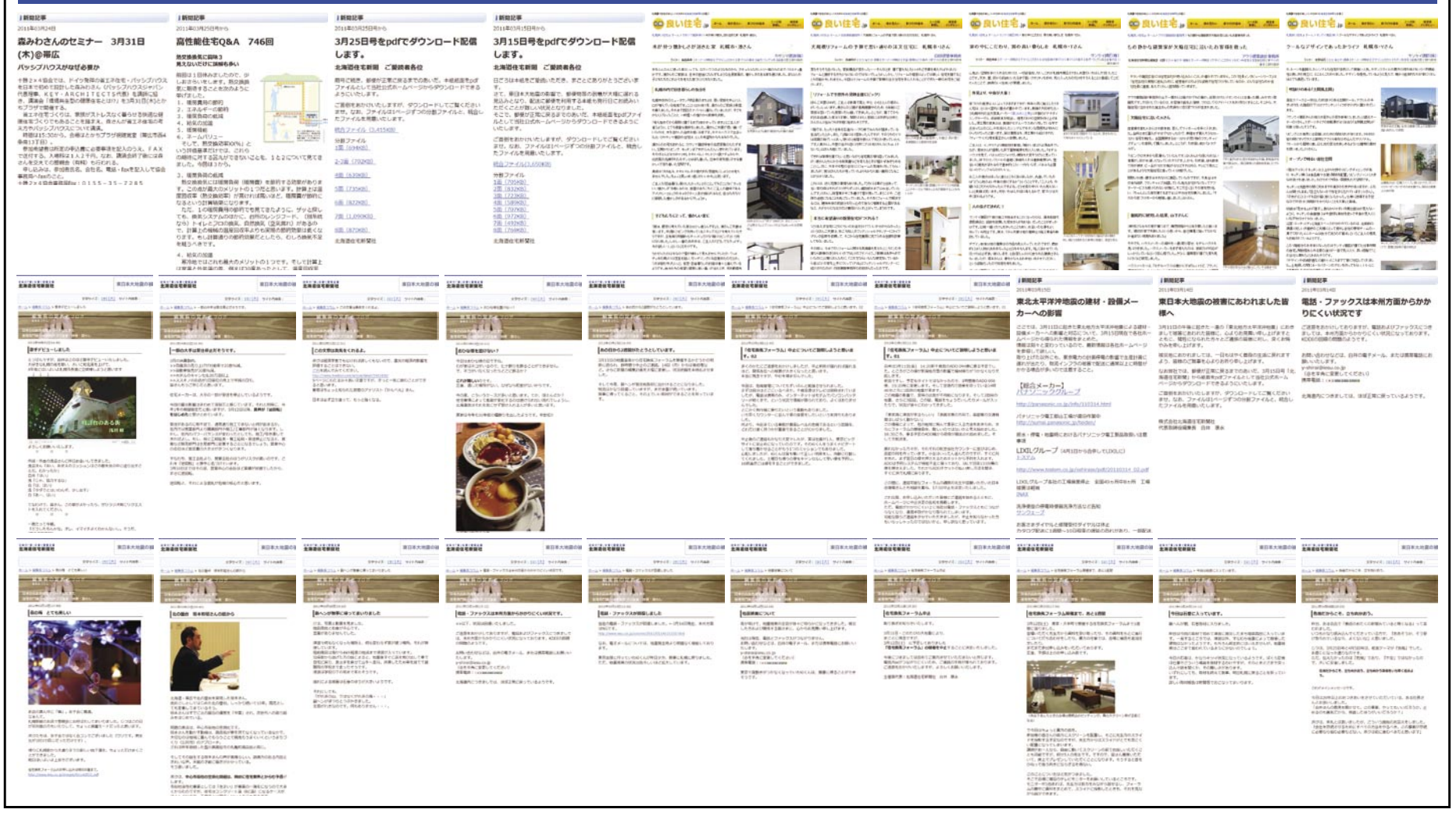
ケータイ利用者比率は…

スマートフォンなどケータイ端末でインターネットを利用する人が昨年来増えているというニュースを良く見聞きするようになりました。

実際はパソコンでの閲覧者とケータイ端末利用者の比率はどうなっているか調べてみると、３月の期間中で、本紙公式サイトでは２・４％が、札幌良い住宅・ｊｐでは３・９％がパソコンではなくｉＰｈｏｎｅやｉＰａｄ、アンドロイドケータイなどを使ってサイトを閲覧していることが分かりました。

当社では現状ツイッターやフェイスブックなどを活用していないため、世間一般のサイトに比べ、ケータイ端末を活用しているユーザーの閲覧が少ないことも推測されるとはいえ、閲覧者が住まい選びという比較的じっくり検討したくなるような内容でもあり、今でも主流はパソコンを使っての閲覧者だと思われます。

住宅会社のウェブサイトもパソコン利用者をメインに見据えつつ、ネット集客の入り口としてツイッターなどの活用も検討すべき状況になりつつあります。

札幌良い住宅.jpトップページ。
http://www.iesu.co.jp/ghs/

3月に追加更新したページ